

「家庭基礎」学習指導案

広島県立福山誠之館高等学校

教諭 来山 徳子

本学習指導案のポイント (高校教育指導課指導主事 松田 百合)

日本の食料自給率についての現状をグラフから読み取らせ、食料自給率の低下に伴う問題点を考えさせた上で、環境保全の観点から、自分の今後の食生活の在り方について考えさせる展開となっている。個人、ペア、グループと、それぞれの活動を経ながら、思考に深まりをもたせ、自分の生活を振り返って今後の改善策を考える事ができるよう、工夫されている。

1 日 時 平成30年11月1日(木) 5限 13:45~14:35 (50分)

2 学年・学級 1学年6組38名

3 単元名 安全で環境に配慮した食生活

4 単元について

(1) 小単元観

本題材は、高等学校学習指導要領家庭 科目「家庭基礎」内容(2)「生活の自立及び消費と環境」ア「食事と健康」を踏まえて設定したものである。ここでは、生涯を通して健康で安全な食生活を営むために、日本の食生活に関する課題の1つである食料自給率について取り上げる。日本の食料自給率が低下している現状を知り、低下に伴う問題点を踏まえて環境と関連付けながら認識させ、食生活の自立に向けた課題について考えさせることを目標としている。

(2) 生徒観

本校の生徒は、授業に意欲的に取り組み、課題解決に向け多角的に思考をする力を持っている。このクラスは、活気があり、自分の意見や考えを自分の言葉で表現することができる生徒が多い。高校生の今の時期は、家族と共に生活をし、食生活の管理は保護者に頼りきりであるのが実情であるが、食事に求めるものについての問いかけに「おいしさ」と答える生徒がほとんどであり、食生活から健康、安全、食環境まで意識をるところまでは至っていない。

(3) 指導観

近い将来、進学による一人暮らしを含めて家族から自立し、食生活を管理する時期を迎える生徒に、食生活の背後にある日本と世界の食料事情や食料問題について関心を持たせ、思考を揺さぶるため、グループワークを取り入れ、様々な考えがあることに気付かせたい。また、食生活に関する多様な情報が氾濫する環境での生活を余儀なくされる現状で、情報を適正に判断し、生涯にわたって健康で安全かつ環境に配慮した食生活を送るために、今自分ができることを考え、実践しようとする態度を身に付けさせたい。

5 小単元の目標

食品の衛生と安全及び日本と世界の食料事情や食料問題を知ることを通して、自分の食生活を見直し、環境に配慮した食生活を送ることができるようにする。

6 小単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・食品の衛生と安全について関心を持ち、意欲をもって課題の解決に取り組んでいる。	・自分の食生活を日本の食料事情を踏まえて環境保全の観点からとらえ、今後の食生活について記述している。		・食中毒の種類とその予防法について理解している。 ・日本の食料自給率の現状、問題について理解している。

7 指導と評価の計画 (全2時間)

次	学習内容 (時数)	評価					
		関	思	技	知	評価規準	評価方法
1	食品の保存と衛生 (DVD 視聴)	○			◎	・食品の衛生と安全について関心を持ち、意欲をもって課題の解決に取り組んでいる。 ・食中毒の種類とその予防法について理解している。	・ワークシート ・定期考査
2	世界と日本の食料事情 (本時)		◎		○	・日本の食料自給率の現状、問題について理解している。 ・自分の食生活を日本の食料事情を踏まえて環境保全の観点からとらえ、今後の食生活について記述している。	・定期考査 ・ワークシート

8 本時の展開

(1) 本時の目標

日本の食料自給率の現状を知り、低下に伴う問題について理解することにより、自分の食生活を環境保全の観点からとらえ、自立に向けた今後の食生活の課題について考えることができる。

(2) 本時の評価規準

・日本の食料自給率の現状、問題について理解している。【知識・理解】

◎自分の食生活を日本の食料事情を踏まえて環境保全の観点からとらえ、今後の食生活について記述している。【思考・判断・表現】

(3) 準備物

教科書「家庭基礎」(大修館書店)、生活ハンドブック(第一学習社)、ワークシート、パソコン、プロジェクター、ホワイトボード

(4) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意事項 (◇) (◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て)	評価規準 (評価方法)
導入 5分	1 課題意識をもつ。 2 日本における食料自給率について考える。 (個人活動→ペアワーク)	◇自分の食事を振り返らせ、食品の生産地について関心を持たせる。 ◇献立を見て、食料自給率を予想させる。 ◇普段の食事で食べている食品は輸入されているものが多いことに気付かせる。	
展開 40分 まとめ 5分	3 本時の目標を知る。		
	私たちの食生活と世界との繋がりにから、課題を見つけ、自分が今後の生活でできることを考えよう。		
	4 食料自給率の低下の原因について考える。	◇日本の食料自給率についての現状をグラフから読み取らせる。 ◇日本は世界各国と比較すると、極端に食料自給率が低い国であることを理解させる。	日本の食料自給率の現状、問題について理解している。 【知識・理解】(定期考査)
	5 食料自給率の低下に伴う問題点を考える。	◆机間巡視を行い、資料から読み取れることをワークシートに書くよう支援する。	
	6 日本の食料自給率の現状を踏まえて、環境に配慮した食生活を送るためにできることを考える。 (個人活動→グループワーク)	◇食品の輸入が環境に与える影響を考えさせる。 ◇環境への影響を少なくするために自分にできることを考えさせる。	
	7 グループでまとめた意見を発表する。		
	8 本時のまとめをする	◇各グループから出た意見を聞き、自分の今後の生活でできることを記入させる。	自分の食生活を日本の食料事情を踏まえて環境保全の観点からとらえ、今後の食生活について記述している。 【思考・判断・表現】(ワークシート)
	9 本時の学習を振り返る		

(5) 判断・基準

評価	知識・理解	思考・判断・表現
A (十分満足できる)	日本の食料自給率の現状及び問題を自分の食生活と関連付けて理解している。	自分の食生活の課題を環境保全と結び付けて考え、今後の食生活でできることについて記述している。
B (おおむね満足)	日本の食料自給率の現状及び問題を理解している。	自分の食生活の課題を環境保全と結び付けて考え、記述している。
C (努力を要する)	日本の食料自給率の現状を理解している。	自分の食生活の課題を見つけ記述している。